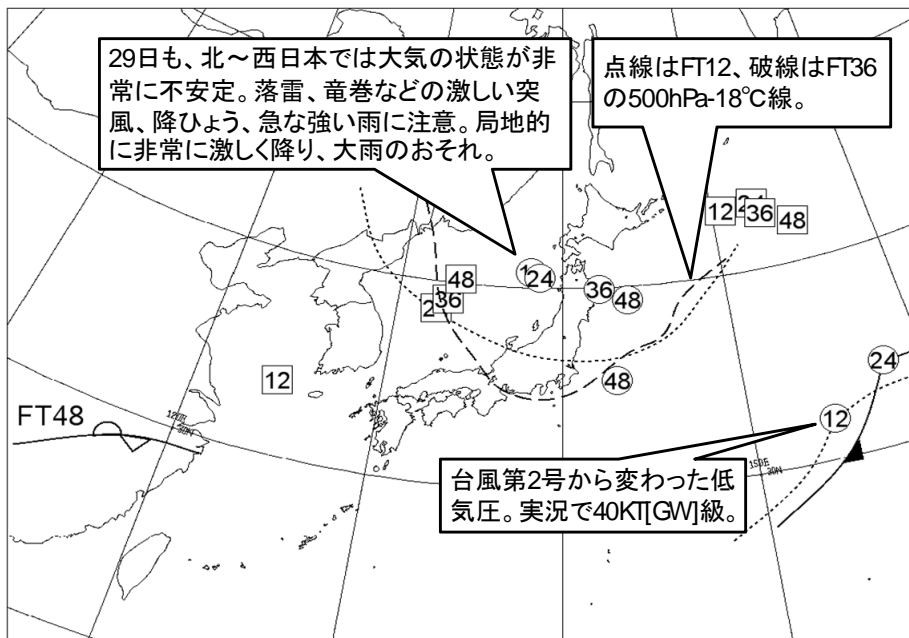


1. 実況上の着目点

①500hPa で-21℃以下の寒気を伴う日本海北部の寒冷渦の南には、5700m 付近のトラフがのび東進。東北地方～西日本にかけて対流雲が発達し、活発に発雷を検知しており、激しい雨が降っている。東・西日本の複数の都県に竜巻注意情報が出ている。土砂災害、低地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

②中国東北区には、次の寒気トラフ (5580～5640m 付近) に対応する暗域があって南東進。

③先島諸島付近では、下層風の収束により対流雲が発達し、発雷やメソサイクロンを検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

①1項①の寒冷渦は、30日にかけて北海道を通過する。寒冷渦を回る1項①のトラフは、29日未明までに日本付近を通過し、目先の現象は一旦収まるが、1項②のトラフが29日日本付近を通過する。300hPaでもシャープなトラフが予想され、500hPa-18℃線は東日本太平洋沿岸まで南下する。日中晴れて気温の上がる東日本太平洋側を中心に、北日本～西日本にかけての広い範囲で大気の状態が非常に不安定となる。落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょう、短時間強雨などに注意。局地的に非常に激しく降り、大雨となる所がある。低地の浸水や土砂災害、河川の増水にも注意。期間を通して500hPa-21℃以下の寒気に覆われる北海道では、日本海の低気圧の東側から下層暖気が入るため、夜間でも対流雲が発達するおそれがあり急な強い雨に注意。

②先島諸島付近のエコーは南下傾向だが、28日夜のはじめ頃にかけて対流雲が発達しやすい。雷を伴った短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 最新のGSMが基本。降水はMSMを参照

4. 防災関連事項[量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル (18時からの24時間：地点最大) 高い所はない。2項の短時間強雨に注意。②波(明日まで)：沖縄・奄美、小笠原3m。

5. 全般気象情報発表の有無 17時頃「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を発表予定。